

## JA 全農 ET センターニュース平成 19 年 7 月号

先月お知らせした全農 ET センター製造受精卵の肥育データを紹介させていただきましたが、問い合わせが多くあったため、今月号は試験報告として、まとめた内容を報告させていただきます。現場で御活躍の皆様にとって、何らかの参考になれば幸いです。

### 「ET センター黒毛和種供卵牛の育種価判明率向上のための実証試験」

ET センター担当：浦川真実・小西正人・青柳敬人

試験期間：平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月

協力・共同分担：古市謙二（全農千葉県本部）

#### 【目的】

和牛受精卵の供給事業において、育種価を持った供卵牛から採卵すること、さらに育種価を活用して供卵牛の選抜淘汰に反映させることで供卵牛群を順次高育種価牛群に改良出来れば受精卵の付加価値の向上にもつながられる。さらに将来的には量的形質に関与する遺伝子座（QTL）情報を活用する遺伝子育種を行なうことでより効率的に牛群の改良を短期間で行なうことが可能となるであろう。本試験では育種価判明率の向上のため、さらに将来的に遺伝子育種を活用した高育種価牛群を構築するために ET センターで製造した受精卵由来の ET 産子の枝肉成績の回収を行った。

#### 【試験方法および材料】

ET センター製造受精卵由来の ET 産子の産肉成績を解析するため、分娩から肥育出荷までを一貫で行う千葉県の宮澤農場 1 ヶ所から枝肉成績を回収した。

#### 【結果】

現在までに 212 頭の産肉成績を回収した。全体の産肉成績は以下の通りであった。

|           | 雄（116 頭）       | 雌（96 頭）      | 全体（212 頭）      |
|-----------|----------------|--------------|----------------|
| 枝肉重量：     | 489.8 ± 58.5   | 469.2 ± 50.0 | 480.5 ± 54.1   |
| ロース芯面積    | 58.5 ± 7.9     | 59.0 ± 8.5   | 58.7 ± 8.1     |
| 脂肪交雑基準値   | 8.1 ± 1.8      | 7.4 ± 1.5    | 7.8 ± 1.7      |
| A・B 4・5 率 | 93.1%（108/116） | 91.7%（88/96） | 92.5%（196/212） |
| A・B 5 率   | 67.2%（78/116）  | 49.0%（47/96） | 59.0%（125/212） |

平均 ± SD

#### 【結論】

ET センター由来受精卵から、上記の枝肉成績が得られることが明らかとなった。さらに他農場からの産肉成績の回収を進めて、供卵牛の育種価判明率向上を目指すとともに、高育種価供卵牛由来の受精卵の製造拡大に努めていきたいと考えております。